

〔国際会議発表〕

発表研究者	京都大学 医学部 特定研究員 八木 直美	2042112
参加会議	IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics 2014	
出張期間	2014年10月3日～10月10日	
開催場所	サンディエゴ アメリカ	
発表論文	Swallow-Monitoring System with Acoustic Analysis for Dysphagia 嚥下障害のための音声解析による嚥下モニタリングシステムの開発	

概要：

本研究では、人間の生存または生活の質にかかわる「飲み込む」という基本活動である摂食・嚥下機能をセンシングし、嚥下障害患者のための嚥下モニタリングシステムを開発した。嚥下機能検査としてX線造影検査が一般的であるが、本システムでは計測時の侵襲性をなくし、計測精度を担保した上で場所、技術を問わない簡便な検査を実現する。患者と医療従事者双方の身体、心理的負担を軽減させることが可能である。さらに健常者や嚥下障害患者の日常の嚥下をモニタリングすることで「人間と機械の調和」を促進する。

今回、IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics 2014で企画されたスペシャルセッション「Medical and Health Care Engineering (4th Mini-Symposium on Medical and Health Care Technology)」にて発表した。私の国際会議発表の目的と意義は以下であり、大変有意義な機会となった。

- 1) 本研究を世界の学者者に対して国際的にアピールし、海外研究者との交流をつくる
- 2) 自身の研究分野における最新の技術動向を知る
- 3) 若手研究者としての研究実績をつむ

また、発表することだけに捕らわれず、世界へ向けて研究意義を伝えることを念頭に目標にした。発表後の質疑応答では、広い分野の学者者からの研究成果に対する評価、意見、指摘を得た。さらに医療工学分野での国際的な意見交換も出来た。今後の研究に向けたネットワーク作り、学術的知見の蓄積に有効となり、大きな収穫となった。

SMC 2014 国際会議では900名もの研究者が集まった。日本人研究者の参加も多く、日本のこの分野における先進性も感じられた。世界の第一線で活躍する研究者が集まり、議論できる国際会議で、最先端の研究を直接肌で実感した。研究の方向性を見据え、視野を広げる良い機会となった。積極的に研究活動することによって得られたこの貴重な経験を今後の研究に役立てていきたい。